

エコノフォーラム座談会

「これからの大学教育」 学生と教職員の視点

日時…2016年12月14日(水) 9時30分～11時

場所…経済学部2階会議室

出席者(五十音順)...

学生 梅木恵里子さん

中江 美紗さん

中本 雄大さん

松永 雄太さん

教員 根岸 紳教授

長谷川哲子准教授

職員 永瀆 晶乃さん

三上 祐介さん

司会 本郷 亮教授

本郷 皆さま、本日は「これからの大学教育」

について活発に議論できればと思います。大学教育の世界は、本格的な競争と変革の時代に入ろうとしています。そのような中で、「関学経済学部らしい」教育のあり方や、改革の方向性とは、一体どのようなものなのでしょうか？

学生の多様な活躍を促すために、外国人留学生や、勉強と部活の文武両道に励む体育会所属学生を、学部はどのように支援すればよいのでしょうか？

論点は多岐にわたると思います。何でも自由に発言してください。最初に自己紹介をお願いします。

します。では、根岸先生から。

根岸 どうも、根岸紳です。私は3月末で退職するので、皆さんに遺言をしておこうと思つて(笑)。ざっくりばらんに話したいと思います。僕は18歳で関学経済学部に入学し、10年間ほどは学部・大学院の学生として、その後の40年ほどは教師として、関学で過ごしました。だから関学しか知らんわけです。よく勉強し、よく遊びました。お酒も飲みました。教師になつてからも、基本的には学生と一緒に遊びました。格好良く言えば、学生目線に立つて一緒にワーワーやっていた感じ(笑)。でも、それが実は大事

なんですよ。

長谷川 学部教員の長谷川哲子です。主に留学生対象の日本語科目を担当しています。経済学部では、今年度は「言語と文化」という講義科目と「基礎演習」を担当しています。

本郷 学部教員の本郷亮です。現在、副学部長をしています。私も関学出身で1995年に経済学部を卒業しました。卒業直前に大震災がありました。大学院も関学です。結婚式もランバス礼拝堂、息子も娘も関学系列です。8年間、青森の小さな私立大学に勤めていたので、地方私大の大変さはよく分かります。私の夢は、私

今日、日本の大学はさまざまな意味で「転換期」を迎えています。伝統ある関西学院大学経済学部が今後も大学全体を牽引できるような集団であり続けるためには、その伝統や個性を堅持しつつも、新たな社会動向に適応し、進化せねばなりません。しかし具体的にどうすればよいのでしょうか？本座談会では、この大きな問題について学生・教職員が色々なアイデアを述べています。わが経済学部が今後もきっと発展することを願って！



根岸 紳 (ねぎし しん) 経済学部教授。専門は計量経済学。関学経済学部出身。元学部長。体育会の会長や部長を務め、大学スポーツの発展に長年尽力

が定年を迎える20年後ぐらいまでに、関学をさらに良い大学にすることです。

三上 学部事務室の三上祐介です。今はちょうど自己点検・評価や目標設定の業務をしています。経済学部全体の目標を達成したのかわからないのか、指標は正しかったのかという点検をして公表することを各大学は求められているのです。

永瀆 学部事務室の永瀆晶乃です。2016年3月に本学の商学部を卒業し、4月から経済学部で働いています。入職1年目なので覚えねばならないことが多く、苦労しています(笑)。

長谷川 永瀆さんは学生時代に部活やサークルなどは何かしていらっしゃいましたか？

永瀆 部やサークルには入っていませんでしたが、大学4年間、ずっと学内の総合支援センター

でノート・テイクという活動をしていました。根岸 関学ではそのようなボランティア活動は、伝統というか、献血活動もそうですが、盛んですね。他大学に比べて関学はノート・テイクも多いですか？

永瀆 関学ではノート・テイクの登録者自体は多いのですが、実際に活動しているのは30人ほどに絞られます。他大学にも確かに多くいるのですが、学校ごとに体制が幾分異なります。

関学では1人の利用学生さんに対して、ノート・テイクは「3人体制」(手書き1名とパソコン2名)が基本です。他大学では、パソコン2名のみだったり、あるいは授業科目によっては、関学でもそうですが、手書き1名のみだったり、色々です。

中本 大学院(経済学研究科)修士課程2年の中本雄大です。私は大学1年の基礎演習から今に至るまで6年間ずっと根岸先生のゼミ生です。本日は座談会にお招き頂き、ありがとうございます。

梅木 経済学部4年の梅木恵里子です。現在、体育会スケート部(スピード部門)で活動しております。本日はよろしくお願ひいたします。

中江 経済学部3年の中江美紗です。現在、本郷先生のゼミに所属しています。こんな服を着ているのは、体育会バレーボール部に所属しているからです。本日の座談会のお話を頂き、「私で大丈夫かな」と戸惑いつつも、お受けさせて頂きました。

松永 経済学部2年の松永雄太です。学部のエコゼミ委員会に所属しております。本日はどう

かよろしくお願ひいたします。

学部生の就職現状

本郷 まず経済学部の就職状況については、関学キャリアセンターの公式データがあります。公開の許可を頂いたものですが、それによれば、2016年3月の経済学部卒業生のうち、日経が選んだ主要400社に就職したのは43.0%で、今回も経済学部が関学のすべての学部の中でトップです。

ちなみに東洋経済新報社の「2016年有名企業400社への実就職率ランキング」(2016年9月)によれば、こちらは全学部平均の値ですが、阪大35.4%、関学28.2%、神大26.7%、立命23.5%、関大20.6%です。



本郷 亮 (ほんごう りょう) 経済学部教授。専門は近代経済学史。関学経済学部出身。体育会体操部部长。ゼミ活動(勉強も遊びも)が大好きです

この記事はインターネットで簡単に見ることができません。

このように関学はもとも「大企業就職率」はかなり強いんですが、なかでも経済学部は強烈です。学部の先人たちが築き上げてきたブランド力は健在です。大学教育を考えるさいも、何でもかんでも変えるのではなく、守るべき教育の根本（伝統）と、時代に合わせて改革すべきことを、見極めるのが肝心でしょう。

大学教育の根本とは？

根岸 何のために大学で学ぶのか。経済学に限らず、色んなことを広く勉強すべきです。相手の主張を理解し、勉強を通じて自分自身の考えを整理して、相手にしっかり話す。そういう議論のできる人間になることが第一です。まずはそのために大学で勉強するのでしょうか。

経済学部では「卒業論文」が必修ではなくありません。これは非常に寂しいことです。本当は全員に書いて欲しいんです。その前提として、全員が何か自分のテーマを持って欲しい。もちろんテーマの途中変更もあるでしょうけど、とにかく皆が問題意識を持ちながら大学生活を過ごして欲しいです。でもすぐ答えが出ないような安易なテーマはダメ。4年間で答えは出ないかもしれない。本当にやりたいテーマをじっくり考えたい。それを支えていくのがゼミの役割だから、焦らない、焦つたらあかん。

本郷 論文を1本も書かずに卒業する大学生というのは、一昔前では考えにくい。そこまで学

生の「選択」に任せるのは、議論の余地もありそうです。

根岸 卒論の執筆はゼミ（研究演習Ⅱ）に含まれていて、4単位です。でも卒業のための単位が足りている学生は、卒論を書くのはしんどいので、就職が決まったら途中でゼミをやめることがある。長い目で見たら、それは本人にとつて「損」です。だから、論文じゃなくて少し軽めのレポートでもいいから、（ゼミの4単位とは別に）その執筆に2単位ぐらい出したらどうかな？読む側の教員は大変やと思うけど……。

やっぱり何か書いて卒業するのが大事。卒業後に「自分は大学で何をやったのかな」と振り返る時もある。僕なんか、キリスト教で点が低かったとか、ドイツ語で落とされたとか、そういう思い出しか出てこないけど（笑）。学生は自分のテーマをしっかり持って、全員が論文を書いて卒業して欲しいんです。もうすぐ定年なので、皆さんへの遺言みたいですけど、よろしくお願いします。

三上 立派に議論できる人間。そして卒業後に大学で学んだことを語れる人間。卒論はその意味では「学生生活の総決算」ですね。

根岸 それから、僕のゼミはディベート中心に動いていました。20年間以上、立教大学を相手にディベートをしました。東京の連中はこういう考え方をするのかとか、刺激があります。積極的に外と交流することが大事で、これはグローバル化の土台です。

他のゼミともたくさんディベートをしました。勝ち負け自体はどっちでもいい。肝心なの



三上 祐介（みかみ ゆうすけ）経済学部職員（事務長補佐）。学生時代はバイクで日本一周やキャンプリーターなどアウトドア派だったが今はすっかりインドア派

は、みんなで勉強してあかだこうだ議論する、ディベートに出るまでの過程。それをサボつたら、勝つても意味がない。色々な意見を知ること、勉強して自分の考えをまとめていくこと、議論すること、が一番大事です。

中本 それ、よくわかります。

根岸 経済学部のホームページの「われら関学経済人」のコーナーに、根岸ゼミ卒業生が10名ほど出ていますが、その半分ぐらいは、ディベートと研究発表が良かったと言っています。研究発表でも、大事なのはやはり、プレゼン自体より、むしろ準備と質疑応答なので、これらに時間をかけるのが大事です。

本郷 ディベートも研究発表もそうですが、学生たちはグループワークの方が熱心になりますね。主体性を引き出すには、グループワークが

一番かなと感じます。活発なゼミはどこもグループワークを軸にしている、そのため仲間意識も強い。

根岸 昔から関学生はすごくバランスがいいと言われます。だから社会は関学生を評価してくれるんです。最近では、関学生の知的水準が落ちたとか言われますけど、それはたぶん関学だけじゃなくて、日本全体が落ちてるからです。というのも、昔みたいに日本経済がどんどん成長していれば、「一生懸命勉強して豊かになろう」という分かりやすい図式が成り立っただけ、今は「頑張ってもそんなに出世しないだろう」とか、目標を見失っている。ガリ勉しなくなっただけ、今の若者の合理的行動だし、その分、他のことに頑張っていると思います。

関学生はまあまあ頭が良く、色んなことにチャレンジし、遊びも人づきあひも上手い。バランスが良いから出世するのでしょう。バランスが良いと言われるのは、非常に嬉しいことです。いくらペーパーテストの偏差値が高くても、卒業して社会に一步出れば、人間としてのバランスが悪いとダメでしょ？経済学部でも、そういう「全人教育」の方針がずっと守られてきました。だからこれまでゼミ活動に力を入れてきたわけです。

僕は成功したかどうか分からないけど、学生と一緒に遊びながら、色々なことを一緒に学んで、お互いに影響しあいながら過ごすことができて、本当にいい50年間でした。僕はもう定年ですが、関学には非常に期待しています。

教育の経済学

本郷 話は変わりますが、最近いわゆる「教育の経済学」が流行っていて、例えば、中室牧子『学力』の『経済学』（2015年）が有名です。けっこう面白い本です。歴史的に見れば、教育の経済学は、シカゴ大学のベッカー（Gary Becker）の『人的資本』（Human Capital, 1964）が嚆矢です。この本はサブタイトルに「with Special Reference to Education」という文言が含まれていて、内容はまさに教育の経済学です。彼は1992年にノーベル経済学賞を取りました。

もう1人有名なのは、同じくシカゴ大学のヘックマン（James Heckman）で、彼も2000年にノーベル経済学賞を取りました。ヘックマンは主に幼児教育の研究。しかしベッカーもヘックマンも、統計データ（エビデンス）に基づいて教育を論じるスタイル、科学的スタイルは共通しています。

一番大事だと思ったのは、中室さんの本にも出てきますが、精神能力には「認知能力」と「非認知能力」の2つがあるという点です。認知能力は、学力テストなどで測る「知力」です。ちなみに小学生にドカッと教育投資して、例えば塾に行かせた場合、どれほどの期間その投資効果が持続するかというと、中学以降に全然投資しなければ、大学入学までに効果はほぼ消えるそうです。机上の知識は忘れちゃいますから。

一方、非認知能力は、数値化しにくいですが、

いわゆるコミュニケーション能力・意欲・根性・正直などの、社会性に関連する精神能力です。これを幼稚園児に投資しておく、その投資効果はほとんど一生モノだそうです。学力テストで測れないこれらの非認知能力が、卒業後の社会的成功ですごく重要なわけですから、先ほどの「関学生の強みはバランスや」という話は、精神面に限定すれば、認知能力と非認知能力のバランスと言え換えてよいと思います。というか、最近ではOECDなども「教育」概念をそのように広く捉え始めて、日本の国公立大も入試改革に着手しています。人工知能（AI）の急速な進歩の中で、近い将来に「教育」概念が大きく変わる可能性もあります。

非認知能力を鍛えるには、人と交わって学ぶというか、真似るといふか。大学生の場合、たぶんゼミ、部活、バイトなどが非認知能力の訓練の場ですけど、ヘックマンによれば、幼児期における非認知能力への教育が投資収益率では一番高いみたいです（笑）。

根岸 大学生だと収益率がだいぶ下がってるかもしれないへんな。だいぶん出遅れた（笑）。でも遅くない？

本郷 もう1つ、私はGPAはすごく安易な指標だと思います。以下は火星学院大学という他大学の話なのですが、GPAを高くするには、学生にとって、①確実に単位を取れる科目、また可能であれば高得点を得やすい科目、を厳選して履修すること、②卒業に必要な124単位が揃ったら、それ以上は履修をしないこと、が最適というか鉄板の戦略になります。

GPAの怖さは、それによって学生が毎年、その方向に駆り立てられることです。恒常的な一種の引力です。科目選択という大学教育にとつてとても重要な選択がどれほど左右されてきたか。この引力が消えれば、学生の行動はガラッと変わるはずですが、もちろん各科目の合格率を揃えるのは、問題もありますが、そのコストとベネフィットを比較検討するのが「教育の経済学」でしょう。

経済学部個性

長谷川 経済学部の個性って何ですか？

根岸 一昔前の話だけど、僕は、関学と言えは経済しかないと思っていました。偏差値もべらぼうに高くて、「俺は経済しか受けへんぞ」って。でも最近では、偏差値が競合学部に分ける年もあり、悔しくてしようがなかったけど、時代の変化だし、慶応の経済学部だって法学部に抜かれたりしているの、ある程度は仕方がない。

今の関学経済の個性って何でしょうか？

中本 縦のつながりでしょうか。学生の上下関係もそうですが、昔から学生とOB・OGのつながりも強い。経済学部は他学部よりも縦のつながりが強いと思います。

根岸 確かに関学は全体として愛校心は強いと思うけど、今は学部は全然関係ない気がするけどな…。

中江 関学といったら経済学部が顔じゃないですか？

根岸 それは昔の話やろ（笑）！

本郷 でも偏差値では陰りも見えますけど、大手企業就職率では今でも経済がトップ。だから、大企業に就職したい人には「一番お得な学部」ではないでしょうか？

三上 入試だったら、今は商学部も強い。しかし2017年度入試の志願者数では、経済学部が商学部を上回りそうです。

根岸 統計で見たら、経済も商もほとんど同じ。関学経済の個性って何ですか？

中江 私は指定校推薦の面接で「なぜ関学の経済なの？」って絶対聞かれると思って、答えを準備しましたけど、結局、学部のパンフレットに書いてあることを言うしかなかったです（笑）。それを言ったら、「それは他大学も同じでしょう」とか言われてすごく困りました。私は経済というより、とにかく関学に行きたかったの…。

根岸 それが正直なところかもしれない。とりあえず関学、たまたま経済、っていう学生は多い。

中江 そろそろ「あわよくば経済」っていうのが本音ですけど。結果的に良かったです。高校では、経済学には数学が要ると聞いていたが、実際にはそれほど数学を使わなくてもなんとかなりますし（笑）。

長谷川 3年間経って、経済学部にはどんなイメージを持っていますか？

中江 部活で他学部の子たちと話す、経済は1年生のうちからゼミ対抗のディベート大会やスポーツ大会をしたり、レポートを提出したり、他学部と異なるところがあります。私が1年生



中江 美紗（なかえ みさ） 経済学部3年・本郷亮ゼミ。2015年の体育会女子バレーボール部のエース・アタッカー。勉学と部活の文武両道を実践

のときは結構頻繁にレポートを書いたので、それはすごく自分のためになりました。でもそんなこと、入学前には分かりませんよね。

根岸 いきなり何か変な創作しろ、とか言われたり（笑）？

中江 結構、楽しそうって言われますよ（笑）。

本郷 2年生の5月のゼミ選択の時期は、毎年大騒ぎしていますが、これは経済学部の特徴なのか？お祭りみたいで楽しいけど、ゼミへの力の入れ方は、経済は強烈な気がします。ゼミ間の競争が激しいというか。

根岸 商学部もすごいよね？

永濱 経済学部は2年の秋から研究演習入門がスタートしますが、商学部は3年の春からです。また先ほど中江さんが言われたような、1年生のときのスポーツ大会やディベート大会は、商



永瀨 晶乃 (なかはま あきの) 経済学部職員 (書記)。
関学商学部出身。社会人1年目として2016年4月に入職し、経済学部事務室配属となる

学部にありません。これらのことを考えると、横のつながり、縦のつながりという点でも、商学部に比べて経済学部の方が確かにゼミ教育に力を入れていると感じます。

三上 松永君は、大学はどうやって選んだの？

松永 僕は最初に学部を決めて、それで経済学部に絞って、関関同立で考えたときに、周りの人たちに相談すると「経済だったら関学」と言われて、それで関学を受けました。ちゃんと合格できて、よかった。やはり1年生の基礎演習が、横のつながりのスタートでしょう。スポーツ大会とかの基礎演習のイベントで横のつながりができました。これは他学部にはない、すごくいい制度だと思います。

本郷 私も、25年前に関学経済を選んだ理由は、親とか周りの大人に言われた「経済は就職いいぞ」の一言でした(笑)。そして実際に入学してから、学部の誇りとか自覚が生まれたんですね。だから、高校生にそんなことを求めても無理ですよ。三上さんは、職員の立場から見ているのですか？

三上 経済学部に所属になり6年になります。最初に来たとき一番驚いたのは、エコゼミ委員会というものがあって、公式行事を運営したり、そういう古風なことをする学生たちが実際にいて、今どきの学生たち、今どきの先生方が、どちらかと言えばみんな嫌がってやらないことを、ずっと守り通してるところでした。それが学部の歴史、伝統というものでしょうね。

でも6年間見ていると、必ずしもそれが抜群に機能しているわけでもなくて、もちろん悩み事もあるし、改善すべき点も色々あるんです。それを知って、ちょっとホッとしたり(笑)。こんなに古風な、昔ながらのことを真剣にやっている学部も珍しいので、一本芯が通っている学部というイメージでした。今はそれが崩れたわけじゃないけど、「おやおや？」と思うような翳ってきた部分もあり、でも将来に向けてしっかり立て直さなければという雰囲気もあり、さまざまですね。

根岸 永瀨さんの目から見て、経済学部の学生の質はどうですか？商学部と違うところありますか？ 礼儀ができていないとか。

永瀨 礼儀がダメということも、もちろんないです(笑)。私は授業に入ることはないので、単なるイメージになりますが、商学部ではあまり数学は使わず、簿記でも基本的には電卓をた

たく作業です。統計学の授業も一応あるのですが、基本的にそれらは統計学基礎とか経済学基礎など、基礎を1年生のうちに学ぶというもので、経済学部生の独自の強みは、数学を使った理論や統計の分析ではないかと思っています。

本郷 関学経済の「個性」って、厳密には存在しないかもしれませんが、たとえそうでも個性の追求は大事だと信じます。私学は個性が命なのに、国立の真似ばかりしていると関学のアイデンティティーがなくなる。いつも心配しています。

本郷 2014年秋、関学は文科省から「スーパーグローバル大学」に選ばれました。申請大学104校のうち選ばれたのは37校で、関関同立では、関学と立命だけです。選ばれた大学としての責任はスシッと重い。ダブルチャレンジ制度や海外留学派遣や受け入れなど色々改革せねばならないわけですけど、スーパーグローバルと言えば、やっぱり長谷川先生のテリトリーですよ？

長谷川 ものすごい無茶振りが来た(笑)。私は主に学部留学生を担当しているのですが、留学生の声を聞くと、学習内容にはおおむね満足しています。むしろ希望・要望が出てくるのは、広い意味での大学生活の環境です。

特に多いのは、日本人学生との交流の機会が少ないという声です。留学生も「自分たちから日本人にどうアプローチしたいか分からない



長谷川 哲子（はせがわ のりこ）経済学部准教授。専門は日本語教育。主に留学生対象の科目や、言語コミュニケーション文化研究科のプログラム科目を担当

い」と感じています。またサークルやクラブに所属している留学生はいいんですが、どこにも所属していない学生の場合、同じ国の仲間であってしまい、居場所がそこしかなくて、どうしようかと悩む者もいます。

本郷 私も学部の外国人留学生を支援するの必要を感じます。とりあえず入学後に孤立しないように、互いに助け合えるようなグループ作りが一番大切だと考えまして、2016年の春学期には、学部1年の留学生全員に声をかけて、私と職員の土田さん、それから何人かの日本人学生も加わって、2週間に1度、一緒に昼食を食べながら雑談していました。とにかく彼らは異国の地で何から何まで苦労していますよ。

長谷川 留学生は、留学によってまさにダブル・チャレンジの状態にいるわけです。そこか

ら、さらに色々なチャレンジを求められて、非常に苦労していますし、努力もしています。一方、日本人学生の側にも留学生と交流したいという希望があり、日本語のパートナーとして留学生を支援してくれる学生もいます。志のある学生の間では、少しずつそういう活動が始まっています。

留学生はお客さんで、日本人側はそれを迎える人、つまりゲスト・ホストの関係ではなく、そのまま日本で就職したいという留学生は、私が着任した6年前よりも着実に増えています。そういう実感があります。

根岸 僕のゼミでも中国の留学生が2人、大学院に進みました。2人は希望通り、日本で就職しました。

長谷川 一言で「外国人留学生」と言っても、確かに入学直前に日本にやって来る学生もいますが、入学前から日本国内の日本語学校などでずっと勉強してきた学生もいますので、いきなり日本に来て、日本語も分からないという状態では全然ないのです。おそらく日本人学生の中には、留学生の日本語レベルを相当に誤解している人もいます。

ディベート大会のとき、相手チームに留学生が1人いたんです。その学生はディベートで非常に活躍して、結局うちのチームは負けたんです。そのとき、うちのクラスの学生の言葉がすごくショックだったんですけど、「何で留学生があんなに日本語ができるの?」と言うんです。

留学生と交流するとき、**「語の会話の練習相手という入口からかもしれませんが、そうではなく、抽象的ですけど、普通の仲間として交流**

できる場を工夫してほしいなと思います。

梅木 外国人留学生については、スケート部も私が2回生のときに中国の留学生が1人入部しました。でも、ガンガンやる部では、時間の制約とか、スケート部の場合は道具や滑走費に結構お金もかかるので、残念ながらその留学生はやめてしまいました。最近も1人、確か台湾(?)の留学生の入部希望があったんですが、シーズン真っ最中だったので、試合で忙しくて、教える時間もなくて、しっかり対応することさえできませんでした。留学生にとって部活は何か役立つかもしれないので、部活したいという留学生を支援する仕組みがあれば、私たちスケート部も何か貢献できるかなと思いました。

根岸 僕の基礎演習に韓国の留学生がいて、毎回、学生に色々なことを書かせるんですが、問



梅木 恵里子（うめき えりこ）経済学部4年・前田高志ゼミ。体育会スケート部（スピード部門・主将）。勉学と部活の文武両道を実践

題意識がすごく明確なんです。韓国と日本の違いもきっちり分かっています、日本語はときどき変な箇所もあるけど、周りの日本人学生に、とてもいい刺激になります。留学生に比べれば、日本人学生はちょっと問題意識が弱いんです。

中本 大学院では日本人よりも海外からの留学生の方が多いです。留学生が多くて、日本人が減っているのは、両者で就職事情が異なるからでしょうか？

長谷川 専門分野によって違うと思いますが、大学で日本に来て、そのまま日本の大学院に進む人もいます。

中本 先日、大学院進学相談会の相談員を担ったのですが、学部から大学院に上がる学生が少なく、大学院の魅力が高めることが大きな課題だと思いました。

本郷 関学の大学院の志願者を増やすのは難しい課題です。第1に、近年は国立が枠を広げたから、私学は減っている。第2に、大学院修了後の就職市場も、特に研究者になるのは超氷河期。この2大要因は、私たちの手に負えないよ。

三上 現在、大学院（経済学研究科）の定員充足率は0.3ぐらいです。ただ他の研究科も似たようなもので0.3〜0.4です。専門職大学院でも0.5〜0.6。今、全体的に大学院生は減っています。

文武両道① 勉学と部活

根岸 僕は体育会の部長や会長を務め、長く体育会にかかわってきました。最近、関学ではダブル・チャレンジを重視していますが、体育会

の学生は、まさにダブル・チャレンジをしているわけですね。文化総部もサークルもそうです。これらは「正課外」活動と言われるけど、「正課内」に入れたらどうか？批判もあるでしょうけど、例えばそれらの活動を単位化したり、専門的練習法などの科目を作ることもできると思っています。練習法などは各クラブが独自にやっていますが、横のつながりも大事なので、そういう知識をみんなで共有するための科目です。

僕の息子も関学で音楽をやっています。一緒に暮らしながら見ていると、一生懸命練習して色々工夫してるんです。なんか体育会の学生と変わらないような気がして。だから、そういう活動を大学はもう少し正面から捉えるべきだと思います。司法試験をめざす者もいれば、税理士や公認会計士をめざす者もいる。ダブル・チャレンジの概念をもっと広く捉えるべきです。

中江 私もバレーボール部において、勉強と部活の文武両道について感じていることがあります。バレーボール部は2年前にサークルから体育会に昇格した一番新しいフレッシユな部です。だから、みんなバレーボールするために大学に来たわけじゃなくて、普通に勉強して入学した学生ばかりなので、「バレーボールだけやってればいい」という考えではなく、文武両道を目指しています。今年からはスポーツ選抜の学生もどんどん取りますけど、私たちバレーボール部は絶対に文武両道でやっていこうと話しています。

先日、東京で全日本インカレがありました、それが平日で、勝ち進めばその間は授業を休ま

ないといけません。お金がないので、往復なんてできない（笑）。私たちは勝ち進んだので、授業を3日ぐらい休むことになってしまつて、そのとき部員の中で「テストがあるから帰りたい」みたいな話が出てきて困りました。4年生の最終試合なので「お願いやから帰らんといて」と頼んだんですけど、中間テストとかレポートとか、色んな学部の部員がいるので難しくて……

一応、欠席願いは出しますが、必ずしも受け取ってもらえるとは限りません。関学の名を背負っているのだから頑張りたいという思いはあるので、「学生の自分は勉強」っていうのも分かるんですけど、もっと配慮して欲しいなあ、どうにかできないかなあ、と感じました。

本郷 中江さんは、早稲田大学の取り組みを調べてたよね？

中江 そうです。他大学でも文武両道を掲げているところがあつて、どうやってるのかなと思つて調べてみました。早稲田大学には学生アシリート・プログラムがあり、体育会に所属する約2,400人の学生を、4年で卒業できるように支援しています。体育会学生の学業情報を全部把握して、学部と体育会の部長がつながつていて、学業をおろそかにしている学生に個人的にアプローチしたり、単位不足の学生は練習禁止とか大会出場禁止みたいな感じですよ。部活だけやってほしいという甘い考えはダメ、というプログラムのようです。

関学の他の部と交流がありますが、留年しちゃつてる人が結構います。もっと忙しい部もあるのだから、ちょっと怠けてるなあと思いま

すが、実際にうまくいっていない学生がいるので、学部との連携は必要かなと思います。

中本 体育会の学生さんにお聞きしたいのですが、今の授業コマ数はどれぐらい？

中江 今は授業自体あまりとってないので、勉強量はだいぶ減りました。1、2年生のときはテスト前に必死にやりました。でもそれ以外は、正直、自分からは特にしなかったです。

梅木 私も今は卒論だけで、授業が1つもないので、正直、勉強はあまりしてないです。1、2年のときははっきり学校に来てたんですけど、3年からはちよっと中だるみしました。ただ私、「経済と経済の基礎」を2回落としたので、結構勉強しましたよ（笑）。

根岸 4年生であとは卒論（研究演習）だけということとは、しっかりと単位取ったということやね。それはすばらしい。しかも卒論を書くんだから、しっかりしてる！

松永 根岸先生も言われましたが、大学で「自分はこれをやり遂げた」と言えるものを持つことが大事だと思います。インゼミ大会やゼミナール関関戦を運営する側として思うんですが、毎年いつも同じゼミばかりが参加しているような気がします。もっと多くのゼミに参加して欲しい。運営側としてはそれを通じて経済学部に貢献したいと願っています。ゼミ間の温度差も大きいので難しいですが…。

あと、関学の魅力ですが、あまりこういう話をする機会もないので敢えて言えば、私立大学の強みはスポーツの占める部分が大きいので、スポーツの優遇も大事だと思います。



松永 雄太（まつなが ゆうた） 経済学部2年・古澄英男ゼミ。エコセミ委員会に所属し、学部スポーツ大会の準備等で活躍

文武両道② 優遇ではない支援

根岸 いや、僕は体育会に深く関わってきたからこそ敢えて言いますが、「優遇」には反対です。皆で一緒に机を並べて勉強するから、社会は体育会の学生を評価してくれて、それで就職も強いんじゃないかな？全然、優遇していないことが関学の誇りですよ。だから優遇じゃなくて、体育会の活動を単位化するか、一所懸命頑張っているのを少しの単位でいいから、あれ、これ優遇かもしれないな…、うん、優遇や（笑）。

批判もあるでしょうけど、彼らは監督・コーチ・OB・OGとか、大人との付き合いもあって色々勉強するわけです。上下関係も厳しく、お金も時間もかかる。それを何かの形で正式に

評価したらいい。

実はスポーツ選抜入試は、僕が入試部長のときに大学全体に導入したんです。その責任者だったんです。そのとき調べたのはデータです。エビデンスに基づいて判断したんです。エビデンスを過信したらダメだけど、1つの基準にはなる。最初は大反対されましたが、どう説得したかというところ、体育会の学生の留年率が高いけど、ちゃんと卒業してる。卒業率は一般学生と変わらないし、留年率もそれほど大きくは変わらない。そういうデータを見せたんです。エビデンス・ベースドな改革でした。

また当時は、関学の偏差値が下がってきたし、スポーツも弱かったから、多様な学生を入れて、スポーツでマスコミに取り上げてもらって、関学を元気づけようという意図もありました。入試部長として偏差値を回復させる必要があったのも事実ですが、それだけでなく、色々な学生を入れてちよっと沈んでる一般学生も元気づけようとしたわけです。皆で一緒に机を並べて勉強すれば、お互いに刺激を受けて活性化すると期待したんです。

ただ、うまくいっていない面もある。体育会の学生は勉強しないとか、不祥事を起こして関学の足を引っ張るとか…。しかし一方では良い面もあります。

本郷 教員の大半はスポーツと無縁なので、体育会の学生を理解する教員は少数派でしょうね。私は体育会体操部の部長をしていて、試合とか飲み会とかOB・OG総会によく出席しますが、部の雰囲気が好きです。就職に強いのも納

得します。スポーツが関学に貢献しているのは明白なので、「優遇」以外の方法で彼らを支援する実際の工夫が必要でしょう。

根岸 昨日も基礎演習で、陸上競技部の学生が「優遇して欲しい」みたいな発表をしたんだけど、一般学生は「どれぐらい練習してるの？」と当然聞くわけです。その答えを聞いて彼らは驚く。「そんなに練習してるんか、それやったら優遇も仕方がない！」みたいな話になったけど、そこは教員としては「優遇はアカン」という結論で収めるわけです。

松永 スポーツ系科目を作るのは実現しそうですか？

根岸 体育会のOBやOGのみなさんをお願いして、学生たちに大学時代の経験とその経験がその後の人生にどのように活かしているか、話してもらっています。KGA A(体育会同窓倶楽部)寄附講座という名称で2単位がとれるんですよ。反対もあったけど、おそらく関学では初めてです。体育会OBは活躍してる人がすごく多い。しかも彼らの関学への愛着は、ものすごく強い。昔のOBは学生時代にあんまり大学で勉強してない(笑)。そういう時代でしたから。だから「今の学生は大変や」なんて言います。でも体育会の学生が社会から評価される理由は、関学の強みと実は深いところで関連するもので、しっかり考える必要があります。

本郷 僕は役職上、「退学率」にすごく注目しています。経済学部では近年、外国人留学生の値が突出していて、次にスポーツ選抜の学生が来ます。だから何か手を打つ必要がある。

三上 体育会の学生の行動は、基本的には今も昔も変わっていないと思います。在学中の4年間はスポーツを仲間と一緒にやっていますから絶対やめないし、燃えるように活動しています。むしろ単位不足で卒業できずに退学するケースが多い。だから彼らの退学の多くは5年目以降です。この場合、本人の勉強意欲がなくなったというより、経済的事情や周りの環境などが退学の主な要因と考えられます。

もちろんお金のこともありますが、最近の大学生は真面目化しているので、4年生や5年生や6年生が、1年生と一緒に基礎科目や言語科目の授業を受けると疎外感を感じて…。それでやめちゃう。

根岸 関学でプロの選手になった人もいますけど、ある人はあまり単位取らずに中退しています。私も、体育会学生本部の学生たちも、そういう学生を評価しません。文武両道ですから。プロになった人でも、ぎりぎりでもちゃんと卒業した人は高く評価します。先ほど、退学率が高まっていると聞いて残念です。でも、優遇には反対。やっぱり普通にやって欲しい。

三上 最初、この座談会にこのメンバーが集まった理由を考えてみたのですが、経済学部の目標設定と噛み合いです。

1つは、最初に根岸先生がおっしゃったテーマを持って文章を書く力ですね。経済学部では2016年から5年計画で、書く力の訓練(いわゆるライティング・アクロス・ザ・カリキュラム)に力を入れていきます。まず1年生の基礎演習で、書く力を鍛えますよね。でも2年生

以降はどうかというと、これまで学部としては何もせず、それぞれの授業やゼミに任せていました。そこで今後5年間の目標として、それを学部としてきちんと制度化していきます。

また、その今後5年の目標の中には「あらゆる学生が活躍できる学部」にすることも含まれます。長谷川先生がおっしゃった留学生の活躍も、根岸先生のおっしゃった体育会学生の活躍も、ここにいる学生の皆さんの姿も、学部としての正式な目標のひとつなのです。

多様なアクティブ・ラーニング

根岸 学生有志によるエコゼミ委員会ですが、その下に研究会みたいなものが色々できたんですよ。僕は大学でバンドの音楽活動をやったけど、大学紛争があつてやめたんです。その後、友達から「お前、遊んでばかりじゃあかんやろ」と勉強のサークルに誘われました。それが今の僕につながっています。エコゼミを基盤にして、色々な勉強会や研究会を作ったらどう？ピケティ研究会とか、学生はマンキューの教科書に苦しめられてると思うのでマンキュー研究会とか。あるいは経済学検定、統計検定、TOEICの勉強会とか。やりたい学生、多いはずですよ。そういうグループを学部として公認すればいい。昔はあつたんですよ。僕も「現代経済学研究会」かな、大学院生が指導してくれて、河野先生も一緒に勉強しました。

今では、学内にコモンズ(アクティブ・ラーニング・スペース)があります。授業だけじゃ

なく、そういう自主活動が増えれば、先輩・後輩の良い関係もできる。

本郷 エコゼミはもつと多方面に発展可能かもしれないですね。研究会も、学生に働きかければ意欲のある学生はきつと出てくるでしょう。4、5人集まったら、すぐ実現しますよ。私は学部3年のときに各ゼミに募集ビラを配って、「経済学研究会」というのを作った経験があります。常連の5人ぐらいが中心になって毎週木曜の夕方にやってきました。テキストはA・C・チャン『現代経済学の数学基礎』。今も定番の本です。各自が勉強してきたことを順番にプレゼンし合って議論するような感じでした。ときどき教員をゲストで招くこともありました。いつも試験前になると、飛び入りの学生がやたら増えちゃって…(笑)。でも上級生は下級生の面倒を見ました。独語とかフラ語も含めて(笑)。

エコゼミも工夫次第ですよ。教員がイニシアチブを取った方が早いかも。

松永 それはおもしろそうですね。

中本 私は教学補佐の一環で、経済学部棟2階の部屋で、学部生の勉強の質問を受け付けてるんですが、そこに体育会の学生がちよこちよこ来てくれます。気軽に質問できる相手がなかなかいないようです。教授だと敷居が高いですし。だから体育会の救済や優遇ではなく、勉強で困ってるすべての学生がいつでも頼れる「場」をもつと用意するのが有効かなと思います。今は大学院生がしていますが、学部の上級生がしてもいいはずですよ。

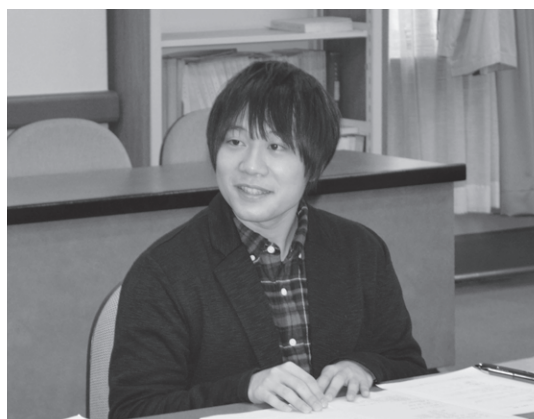
永瀆 上級生をLA(ラーニングアシスタント)

として採用して授業の補助をする動きは、経済学部では毎年増えていますのでいい傾向ではないでしょうか。

良い教員とは？

長谷川 学生のみなさんに聞きたいんですが、学生にとって教員の存在はすごく大きいと思うんですよ。でも、どんな先生が「良い先生」なんでしょうか？ 去年まで学生だった永瀆さんは、どう思われますか？

永瀆 そうですね。授業内ではなく、授業外で個人的に話を聞いてくださったり、相談に乗ってくださいたりした先生が強く印象に残っています。もちろんゼミの先生にも就職活動の相談などはしますが、それ以外の先生にもお世話に



中本 雄大 (なかもと ゆうだい) 大学院・経済学研究科前期課程2年・根岸紳ゼミ。専門は計量経済学。経済情報処理入門でお馴染みのお兄さん

なりました。

中本 私が心から尊敬する先生は根岸先生ですね(笑)。先生にはずつとお世話になりっぱなし。

根岸 反面教師(笑)。

中本 根岸先生は教員であるだけでなく、父親のような存在で、学生の立場に立って親身に相談に乗ってください、的確にアドバイスしてくださる。本当にすばらしい先生です。先生を慕う学生は私だけでないですよ(笑)。

根岸 褒めすぎや。安心して定年を迎えられる(笑)。

梅木 学部の講義は、学生が多いので、私自身、あまり先生と個人的に深くかわる機会がなかったので残念です。実際、就職活動のときに「一番に残っている授業は？」と聞かれて、本当に頭に浮かばなくて。そのとき、ふと思い浮かんだのは、2回単位を落としたり「経済と経済学の基礎」でした。そう考えたら、甘やかしてくる先生ではなく、しっかり自分を叱ってくれて、「ちゃんとやれ！」と叱咤激励してくれる先生の方が「良い先生」というか、学生を成長させてくれる先生かなと思います。小中高でも、やっぱり一番心に残っているのは、しっかり自分のことを怒ってくれた先生なので、そういう先生が自分にとっては一番大きい存在です。

中江 大教室での講義が多く、私も質問などにあまり行かないので、先生との関わりが少ないのですが、ゼミや言語は少人数なので、よく教授のところへ行きました。言語の先生に「中国語をもつと勉強したい」と言ったら、本を貸してくださったり、メールで相談に乗ってくだ



さったり。個別に対応してもらおうと、すごく印象に残って、何かあったときにその先生に頼りたいなと思います。そういう先生が数人います。松永 僕は、中高でずっとラグビーをしていたのですが、部活をしているからといって、学業面で手加減してもらえないわけでもありません。先生に反抗といったら変ですけど、ずっと苦労して頑張ってきた、あまり良い印象を持っていませんでした(笑)。もともとと理系だったんですが、理科が全然でなくて。

しかし中学でも高校でも、1人か2人の先生は、ずっと親身に「大丈夫か？」みたいな感じで指導してくれました。大学でも、心配して声をかけてくれる先生がいました。自分から教員にアプローチしていくのも大事ですけど、たまに気にかけてくれて連絡をくれる先生がいると、やはり嬉しいんです。

長谷川 皆さんに「良い先生」について尋ねた理由は、私は経済学が専門ではないので、例えば基礎演習などで、どのように学生と関わればよいのか分からないときがあるからです。今、お話を伺うと、まずは個人的コミュニケーションの機会を増やすことがすごく重要なんです。私自身の意見としては、同世代の学生どうしではなく、なるべく自分と違うところをたくさん持っている人と接すると、色々な発見があると思います。学内だと、職員や教員など自分と立場の違う人と接することで、いろんな刺激をもらえるんじゃないでしょうか。

本郷 世代の違う人や、とにかく自分と違う人と会話するときは、すごいボキャブラリー力が必要だったりしますよね。ボキャ貧も解消される。長谷川 共通点の多い人どうしなら、ストレスなく会話できますが、共通点のない人、例えば留学生などと会話して、互いに理解し合うこともチャレンジになると思います。

根岸 そのために勉強するんだと思うけどな。勉強、大事です。学生どうしの出会い、教職員との出会い、色々な社会人との出会い。とても大事です。

本郷 ところで根岸先生、御定年を迎えられた

後の計画などは、何か立てておられますか？

根岸 ありがとうございます。実は小説でも書こうかなと思って…。いや、冗談ですよ(笑)。実は、僕のゼミは卒業生が29期生まで、もう700人近くいるんです。その連中を一人一人、訪ねてみようかな。僕の夢です。とにかくコソクトをとりたい。よく連絡をとっている人はいいのだけど、一番気になるのは、おとなしかった、あまり関わりのなかった、僕とあまりしゃべらなかった学生、それから留年してしまった学生、それから残念ながら留年して退学してしまった学生です。ものすごい気になります。

根岸ゼミのホームページがあるんです。あまり活用されていないけど、僕が書き込むこともあります。それを密かに見てくれてるのが、足跡で分かるんです。ゼミで目立たなかった何人かが見てくれる。それは嬉しいですよ。見てくれるのは分かるけど、学生のアドレスは分からないです。そういう学生たちから、まず会ってみようかな。どんな人生送ったのか、今どんな生活してるのか。これが僕の定年後の一番の仕事かな。ちよつと格好良すぎるような気がするけど(笑)。

本郷 根岸先生、ありがとうございます。感動的な話で締めてくださいました(笑)。では、これにて今年の座談会を閉会したいと思います。

根岸 最後に、今一番、期待するのは学生です。学生が主役！関西学院大学経済学部は、みんなにかかっています。よろしくお願いします！